

1 単元名 中世の日本～武士の政権の成立～

2 本単元の目標

- (1) 鎌倉時代の成立を基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったこと、農業など諸課題の発達、都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆等の多様な文化の形成、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解する。
- (2) 武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現するとともに、中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。
- (3) 中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①鎌倉幕府の成立を基に、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し、その支配が広まったことを理解している。 知②農業など諸課題の発達、都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆等の多様な文化の形成、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。	思①武士の政治への進出と展開、農業や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 思②中世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。	態①中世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、内容(2)の「中世の日本」に区分される内容であり、「我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連を踏まえて課題を追究したり解決したりする活動を通して学習することをねらいとしている。」と示されている。そのため、天皇・貴族中心の世の中から武士中心の世の中へ時代が移っていく過程を多面的・多角的に考察し、課題解決を図る学習場面を設定する。

(2) 生徒観

本学級の生徒を対象に、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論することについて、実態調査(令和5年*月*日実施、第1学年*組*人)を行った。第1学年の歴史的分野「古代国家の歩みと東アジア世界」の単元学習後に行った単元のまとめと議論による実態調査では、自分や他者の考えを踏まえ、問いに関するまとめを再構成しながら議論することができた生徒は*人であった。この結果から、本学級では、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論する力に課題があることが分かった。

(3) 指導観

パフォーマンス課題を柱とした課題解決的な学習と、意見交流による生徒の表現を促す学習活動を通して、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成しながら議論する力を育成したいと考える。まず、単元の導入でパフォーマンス課題を提示する。一枚ポートフォリオシート(以下「OPPシート」という。)を活用し、毎時間パフォーマンス課題に対する振り返りを行い、単元を通して様々な視点から問い直していく。そして、問いに対する予想を修正しながら、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、自分の考えを再構成できるようにする。次に、第二次から第三次にかけて、ジグソー法やスクランブルによる意見交流の場を継続的に設ける。議論を通して、生徒が自分の考えと他者の考えを比較しながら課題を追究したり、自身の考えを見つめ直したりしながら、考えを深め、再構成できるようにする。

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	<p>・前時代までの資料を提示し、次に続く鎌倉時代を想像する。</p> <p>平安時代の武士は、社会の中でどのような役割を担う人たちだったのだろうか。</p> <p>・源平の争いの末、源頼朝が鎌倉幕府を開いたことを確認する。また、鎌倉幕府では執権政治が行われていたことを確認する。</p> <p>・パフォーマンス課題について確認する。</p> <p>ある日、御家人であるあなた達は、3代執権北条泰時に呼ばれました。 泰時：「今日、そなたらに集ってもらったのは、次の執権を任せる経時について相談があったからじゃ。」 御家人：「いよいよ、経時様に執権の地位をお譲りになられるのですか。」 泰時：「うむ。わしももう年だからな。しかし、やつはまだ若い。政治について知らないことが多すぎる。將軍をお支えになるには不安が大きい。そこで、そなたらに経時の教育係を任せたい。」 御家人：「我々にそのような重大な役目が果たせませうでしょうか。」 泰時：「そなたらを信頼しているからこそ、息子を任せたいと思っておる。領地の治め方はもちろんだが、息子は平氏が政權を握っていた時代を知らぬ。なぜ平氏が滅び、源氏が政權をとることができたのか、教訓についても教えてやってほしい。そして、幕府がこの先も政權を握っていくためには、何が大切なのか、しっかり教えてやってくれ。頼りにしておるぞ。」</p> <p>・あなた達、御家人は、泰時様の命を受け、経時様の教育係に任命されました。経時様が立派な執権となるために、どのようなことを教えたらいいか、御家人同士で話し合い、「執権の心得」を作成しましょう。</p>				<p>・平安時代の武士は、警護の仕事や反乱を鎮める役割を担う事で、力をつけてきたことを確認する。</p> <p>・パフォーマンス課題を提示することで、追究する必然性や方向性を明確にもち、OPPシートを活用して、毎時間、考えの修正ができるようにする。</p>
		<p>・次期執権に何を重点的に教えるべきか、予想を立てる。</p> <p>・単元を貫く課題を設定する。</p> <p>平安時代にも武士はいたのに、なぜ、鎌倉時代の武士は、一時代を築くことができたのだろうか。</p> <p>・振り返りをOPPシートに記入する。</p>				<p>・パフォーマンス課題の予想をランキングに表すことで、その理由について表現できるようにする。</p> <p>態①：学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組んでいるか見取り、不十分な生徒には自分だったら弟と部下のどちらを大切にするか、当事者意識をもてるように助言する。【観察・OPPシート】</p>
2	2	<p>平清盛と源頼朝の政治は、どのような違いがあったのだろうか。</p> <p>・平清盛と源頼朝のそれぞれの政治の特色について、班で分担して調べる。</p> <p>・班を再編成して、平清盛と源頼朝のどちらの政治が優れていたかを議論する。</p> <p>平清盛は朝廷と結びついて政治の実権をにぎった。一方、源頼朝は守護・地頭を置き、御家人中心の政治を行うことで、鎌倉幕府を長く存続させる仕組みを整えた。</p> <p>・振り返りと議論に関する相互評価をOPPシートに記入する。</p>	○			<p>・平氏と源氏が、それぞれ何に力を入れて政治を行っていたかについて着目することで、議論の際に違いを比較できるようにする。</p> <p>知①：平氏と源氏の政治の特色について必要な情報を読み取れているか見取り、読み取りが不十分な生徒には、情報の探し方や読み取り方を助言する。【観察・ワークシート】</p> <p>思①：武士の政治への進出と展開に着目して、中世の社会の変化の様子を多面的に考察しているかを見取り、できていない生徒には、参考になる資料を提示し、多面的に考えられるようにする。【観察・ワークシート】</p>
		<p>御家人は、鎌倉幕府を本当に信頼していたのだろうか。</p> <p>・なぜ、源氏の將軍が途絶えた後も鎌倉幕府は続いたのかを考察する。</p> <p>・なぜ、武士は鎌倉幕府を支持し続けたのか、議論する。</p> <p>鎌倉幕府は、御恩と奉公という主従関係によって、御家人の領地を保護したり、新たな土地を与えたりすることで信頼を得た。また、武士による法を定め、執権政治の下で、武士は自信をもち、幕府への信頼につながった。</p> <p>・振り返りと議論に関する相互評価をOPPシートに記入する。</p>	○		◎	<p>・政治に対する御家人の満足度をメーターで数値化することで、数値の根拠を基に議論できるようにする。</p> <p>知①：資料を適切に読み取り、主従関係や武士の法律について理解しているかを見取り、理解できていない生徒には、参考になる資料の提示をして、理解できるようにする。【観察・ワークシート】</p> <p>思①：武士の政治への進出と展開について、事象を相互に関連付けるなどして、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。【観察・ワークシート】</p>
	<p>鎌倉幕府は、武士や民衆が満足いく政治を行うことができていたのだろうか。</p> <p>・御家人、貴族（朝廷）、農民、僧の立場から鎌倉幕府の政治に対する満足度をメーターで示して、その根拠を考える。</p> <p>・班を再編成し、各立場の国民の満足度とその根拠について議論する。</p> <p>鎌倉幕府は、御恩と奉公によって武士との主従関係を結んだほか、土地の開発によって農作物の収穫量を増やしたり、鎌倉仏教が広がったりしたことで、国民の支持を得た。一方、反乱を起こした朝廷を監視し、不満を抑え込んでいた。</p> <p>・振り返りと議論に関する相互評価をOPPシートに記入する。</p>	◎		○	<p>・御家人や農民等、立場ごとに政策に対する満足度をメーターで数値化することで、視覚的に自分と他者の考えを比較しやすくすることで、活発に意見交流できるようにする。</p> <p>知②：農業の発達、武士や民衆等の多様な文化の形を背景とした鎌倉時代の社会の発展を理解している。【観察・ワークシート】</p> <p>思②：複数の立場や意見を踏まえ、政策と国民の生活の関係性を捉えられているかを見取り、不十分な生徒には、参考になる資料の提示や補助発問を通して、捉えることができるようにする。【観察・ワークシート】</p>	
3	5	<p>なぜ、鎌倉時代の武士は、一時代を築くことができたのだろうか。</p> <p>・これまで学習したことを根拠に、何を大切にして政治を行うべきか、優先順位とその根拠を明確にして、「執権の心得」を作成する。</p> <p>・パフォーマンス課題に関するまとめについて意見交流する。</p> <p>・パフォーマンス課題をまとめた後、単元を貫く課題について考え、全体で考えを共有する。</p> <p>(例) 鎌倉幕府は、御家人と土地を介した主従関係を結び、絆を強めた。また、守護・地頭を配置し全国を武士が支配する仕組みを整え、武士中心の政權を確立したことで、一時代を築くことができた。</p> <p>・振り返りと議論に関する相互評価をOPPシートに記入する。</p>			◎	<p>・OPPシートを活用し、これまでの学習を基にパフォーマンス課題のまとめができるようにする。</p> <p>・源頼朝が平氏に代わって武士の支持を得ることができた理由を考察し直すことで、幕府が成立した背景や主従関係を基にパフォーマンス課題に迫ることができるようにする。</p> <p>思②：鎌倉時代の政治や経済、文化の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。【OPPシート】</p> <p>・単元を貫く課題をまとめる際には、「執権の心得」を基にキーワードを共有し、まとめの見通しをもてるようにする。</p> <p>態①：中世の日本について、鎌倉幕府を長く存続させるための政策や課題を主体的に追究しようとしている。【観察・OPPシート】</p>